



現在、社団法人瓊林会の事務所として使用されている瓊林会館。校舎模型は、この瓊林会館の1階資料室に保存されており、同じ室内には校舎に使われた手すりや教卓、校舎図面などもあります。見学をご希望の方は事前に瓊林会にお問い合わせください。瓊林会 TEL.095-821-4567



長崎大学経済学部(旧長崎高等商業学校)校舎模型(縮尺1:200)

長崎大学 経済学部 校舎模型

(旧長崎高等商業学校)

縮尺200分の1の校舎の中に、
学生生活がぎゅっと濃縮。
耳を澄ませば、
ざわめきやチャイムの音、
学友の呼び声が聞こえてきます。

「もの」には物語があります。大切に生きてきた人々の思いがあります。このコーナーでは、長崎大学のキャンパスに眠るお宝や芸術作品をクローズアップ。その背景を知り、好奇心をくすぐられたら、今度は本物を観に大学に足を運んでみませんか？

温故知新
Find new
wisdoms through
old things.
Volume
7

明治から昭和のはじめ、長崎の街は洋風建築の宝庫でした。長崎駅、県庁、市役所に県立病院。残念ながらその多くが原爆の被害を受け、また老朽化のため姿を消してしまいました。今では写真でしかお目にかかれない失われた洋館の中でも、珍しく模型として残されているものがあります。それがこちら。長崎大学経済学部のかつての校舎で、明治三十八年に長崎高等商業学校(通称・長崎高商)として建て

られた建築物の模型が、瓊林会館の一階に保存されているのです。「あ、川沿いの桜並木も本物と同じだ」。「この校舎、かつこいいですねー。この時代に通ってみたいかったなあ」。

先日、この模型を見た経済校舎の学生たちが、口々に声をあげたほどの出来映え。実際にこの校舎に通っていた卒業生が見たなら、きっともっと盛り上がったでしょうね。

東京、神戸に次いで全国で三番目の高等商業学校として創設された名門校らしく、堂々たる構えの本校舎は、当時輸入が始まったばかりのアメリカ産の松を使用して建てられたのだそう。模型は、まだ校舎が現存していた昭和四十五年、経済学部の同窓会組織である瓊林会が発注しました。模型が完成した三年後に、校舎は取り壊されました。模型を製作したのは、ヤマネ模型(現・株式会社ヤマネ)。現在も、博物館に展示する模型や鉄道ジオラマの製作などを手掛け

る、創業五十年以上の模型会社です。ヤマネの方のお話によれば、通常、古い建築物の模型製作の場合、図面を提供してもらい、必要に応じて実測することもあるのだとか。また外溝や植栽などもしっかりと写真撮影して、資料を揃えてとりかかるといいます。なるほど、校舎周辺の楠の大樹や、桜並木、アーチ式石橋の拱橋(きこう)を含めた川辺の様子など、細かいところまでしっかりと造り込まれていますね。写真や図面だけでなく、現物がまだ残っていた時に製作されたことで、さらに精度が高まったことがわかります。今も敷地内に残る門柱の基礎部分や石垣など、「どうしてこれがここに」と興味をもった学生や大学職員が、この模型を見に来る確認をしてくる姿を知ることもあるといえます。

「瓊林会も今後、公益法人化を視野にいれています。長崎高商時代の模型や資料など、貴重なものが数多く残っているため、長崎学の資料として一般公開できるように方向を模索しています」と、瓊林会事務局長の金山榮さんと、変わりゆく時代の中で、気が付くといつのまにか失われてしまいう風景。しかし大学はしばしば、タイムカプセルのような役割を果たすことがあるのですね。